

かんじやと医療

第
49
号

(毎月1日発行)

発行所

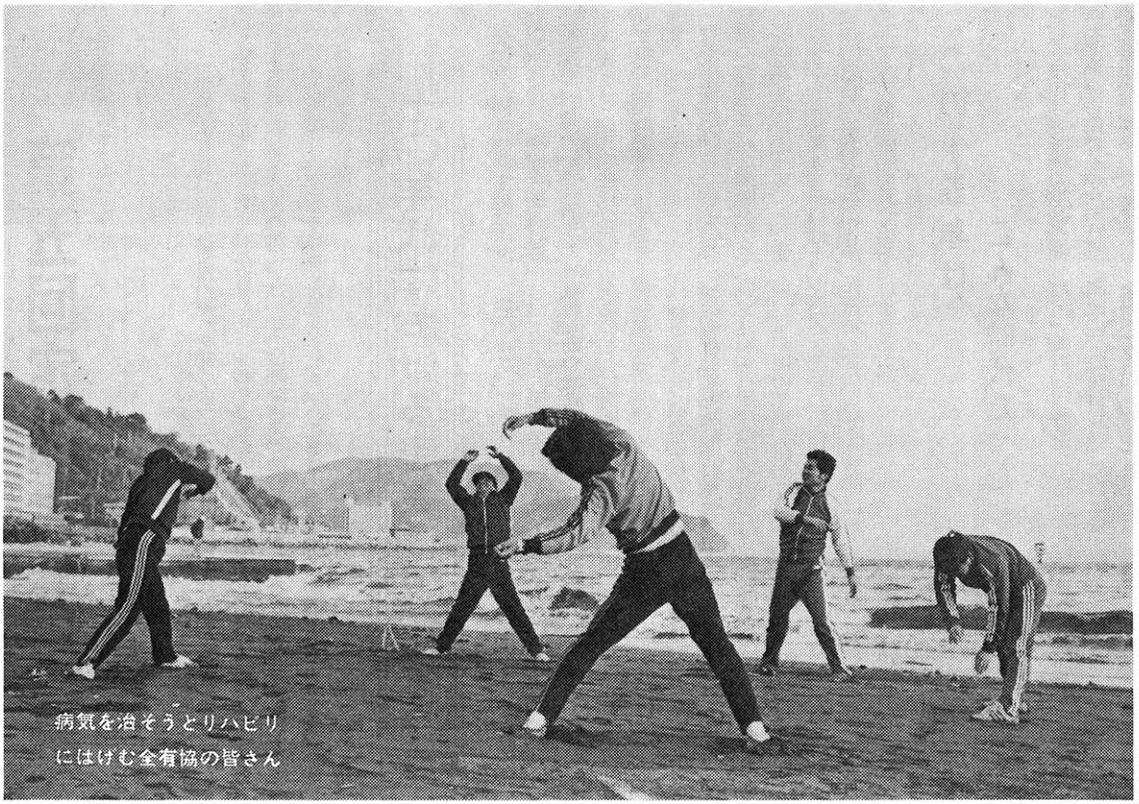
全国患者団体連絡協議会

東京都清瀬市松山2丁目13の12

〒180-04電話(0424)93-5871番

郵便振替東京2-4152

購読料 1部110円 6ヵ月分660円



病気を治そうとリハビリ
にはげむ全有協の皆さん

おもな記事

全患連第五回大会議案

特集号

- 七〇年代患者運動の歩み 2
- 全患連の果たした役割 3
- 患者運動の教訓 4
- 七九年度運動方針案 5
- 大会宣言案 6
- 五大統一要求かけ 7
- 組織方針案 8

【おわび】

今号は大会議案特集のため一般記事は割愛しました。なお発行のおくれについても合せてお詫びします。

北から
南から

国民本位の医療と 福祉づくりの運動を

第五回定期大会議案

全国患者団体連絡協議会

秋も深まり北の方から初雪の便りを聞くようになりましたが皆さんいかがお過ごしでしょうか。全患連も創立五周年を迎え、第五回大会を開くことになりました。十月の予定が十二月になりましたが、今回は七〇年代における患者と家族運動の歩みをまとめて発表すると同時に、八一年の国際障害者年をむかえるにふさわしい来年にかけての新しい運動方針を発表します。全組織でのご討議をお願いすると共に大会への参加と激励なご寄せ下さるようご案内いたします。

七〇年代における患者運動の歩み

全国患者団体連絡協議会は創
立以来五年目、準備会を入れる
と十五年になります。

来年には一九八〇年代に入り
再来年には国際障害者年を迎え
ます。

八〇年代にむけて、どうい
うか、患者と家族運動は引きつ
いて発展する条件はあるのかな
かを討議するに当って、六〇年
代後半から現段階までのほぼ十
五年の患者、家族運動をふりか
えってみる事が求められている
りませんか。

この十五年は

こんな時代だった

七十年代は、国民の生命と健
康をこのように守るかが、社会
国民の反対を押しきって日米安
全保障条約の「改定」を行って

倒閉した岸内閣のあとをうけて
登場した池田内閣は、所得倍増
計画とともに減税、社会保障充
実、公共事業拡大の公約をかか
げました。「経済は池田におま
かせください」と高度経済成長
政策をすすめる、山紫水明といわ
れた日本の国土と環境を破壊
し、公害をもたらし、そのため
七〇年十一月から十二月の臨時
国会は「公害国会」といわれ、
十四の公害関係法の成立をみる
など七〇年代初頭の象徴的な
ものでした。

大気汚染、水質汚濁、騒音、
有害食品、薬害など数多くの公
害が国民の健康を蝕み生身に
脅威を与えました。交通事故被
災者、労働災害・職業病、原因

不明の難病も増大し、国民の有
病率は一九五五年度の国民一、
〇〇〇人に対して三八人から七
一年度には二一〇・三と三・八
倍に増えていきます。一方、患者
数の増大に対し、医療供給体制
は貧弱で待ち時間三時間、診療
三分、患者のたらいまわしとい
った医療荒廃はひどく、医療過
誤、前述の薬害も続発しました。
難病の原因究明と治療法の確
立、多額の医療費負担の解消を
求める運動もつよまり一九七二
年は全国難病団体連絡協議会が

誕生、すでに一九七五年二月
に準備会を発足させ、学習会、
交流会、統一行動を定期的に重
ね患者運動の幅広い統一の努力
をかたむけてきた全国患者団体
連絡協議会が一九七五年正式に
結成をみました。

所得倍増ならぬ物価倍増をま
ねくなど高度経済成長政策の矛
盾と社会保障拡充の国民的運動
を前に、田中内閣は「福祉元年」
をいじりましたが、翌年の七
三年秋の石油ショックは、自主
性を欠いたエネルギー、経済政
策を露呈し、狂乱物価をまねき
患者、障害者と家族の生活を一
段とおびやかすようになりまし
た。

七〇年代後半に入って地方財
政の危機が深まり、患者の運動
を激励し、国に先きかけて福祉
をすすめてきた革新自治体への
攻撃「福祉バラマキ」論がふり
まかれ、国の政治も革新自治体





全腎協の79年度の国会請願

のようになればいいという願いをよそに、革新自治体をつぶすTOKYO作戦がすすめられ、患者の要求実現の運動もいっそうきびしさをくわえてきました。根本的に解消するのはなく、薬代半額患者負担、給食費患者負担などの受診抑制と保険料増収、相互扶助的な財政調整できりぬげようとしています。

そうした情勢を反映して患者運動の分野でも幅広い患者、家族の統一した運動の発展が求められ、七八年四月、ゆたかな医療と福祉の実現をめざす患者・家族集會がひらかれ、日本の医療の歴史に画期的な一頁を記しました。

政府は八十年代にむけて高齢化社会になっても、大企業本位の政治経済をつづけるために、財政危機を理由に福祉きりすての政策を医療、年金をはじめ全般的にわたってつよめてきており、医療保険財政の「赤字」を

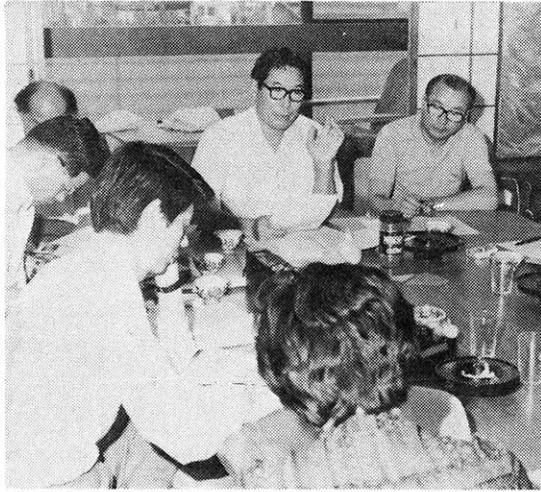
七〇年代の運動は 全疾病を包んだ。六〇年代の後半から七〇年代にかけて、患者の運動は大きな前進をみせました。現在、全患連の八団体、全難連の十三団体。地域難病連は二十一県に組織をつくり活動しています。また、薬害被害者団体も六団体がそれぞれ組織をつくり、スモンの会全国連絡協議会のように大運動を勝利に導こうとしています。このほかに疾病別の全国組織あるいは地域組織もつくり、おおよそ五十種類

運動の高揚期に 全患連の果した役割。六〇年代から七〇年代にかけての約十五間に於ける患者と家族の運動による特徴的な成果と実績をまとめると同時に、そのなかに於ける全患連・八団体の運動による成果と果した役割についても次ぎのようにまとめ評価したいと思います。

一、各団体の独自運動による成果
1、六六年、結核など呼吸器障害者・心臓病による障害者を対象として拡大させまし

た。二、全患連の運動の成果
1、七二年、車椅子で初の参議院社会労働委員会に陳述を行い、七三年には傍聴者用エレベータを設備させました。
2、七三年、障害福祉年金に二級障害への受給権を認めさせ翌年から実施させました。
3、七四年、労働省は初めて結核・心臓・腎臓障害者を身体障害者雇用促進法の対象として認めさせました。
4、七五年、郵便料金値上げに反対し、患者・障害者団体発行の機関誌・紙の郵送料を低料金第三種扱いを認めさせました。
5、七七年、救急・救命センター(脳卒中・心筋梗塞・頭部外傷・内部疾病全体)の整備費を予算化させました。
6、重症患者の入院拒否・救急患者の「たらい回し」の改善要求を認め、厚生省は六十六億八千万円の予算化を申し出た。
7、七七年、差額徴収、付添看護料・通院費の患者負担解消要求に対して、厚生省は初めて国公立病院の差額ベッド代徴収は年次的に削減すると共に廃止することを約束しました。
8、七八年、各種公費負担医療の改善に反対し、改善の国会提出を中止させました。
9、この年、労働省交渉において、翌年度には「労災・職業病対策を労働省の重点課題にする」ことを約束させました。
このほか、むちうち症の治療研究、じん肺の合併症死亡を業務上補償にする、育損センターの調査費の予算化、障害年金と一時金の併給などを職業病団体と共同で認めさせました。
10、七六年以後、「障害年金改正をすすめる会」の結成ならびに障害年金改正運動による①廃疾認定日の短縮化、②厚生年金の事後重症の新設、③障害年金の通年制度の新設などの改正で中心的な役割を果しました。
11、七八年、「全国患者・家族集會」を成功させるために全難連、地域難連、薬害被害者団体など五十一団体の統一運動で重要な役割りを果しました。
三、国民の民主的な運動による成果
1、六九年、老人医療費支給制

の適用を認めさせました。
5、七四年、輸血による医療費の患者負担を保険負担に切り



全患連幹事会の第7回学習会

2、七〇年、医療保険の薬代患者負担(一剤十五円)を廃止させました。

3、七三年、医療保険の家族給付を六割から七割に引き上げと共に高額療養費支給制度の実施をさせました。

4、七六年、健康保険の改悪による初診料、入院時患者負担の増額などをくいとめました。

5、七八年、健康保険の改悪による初診料二百円を二百円、入院時負担八十円を二百円、高額療養費三万九千円を五万一千円、ボーナス保険料の新設などを再び廃案にさせま

した。

しかし、十二月九日には共產党を除く五党合意によって廃案になったものを継続審議にしました。

6、七九年、薬害被害者の救済制度の創設について、製薬独占と政府責任の明確化、既発生の副作用被害者を含めた補償制度の要求は、スモンの会、全国連絡協議会やクロロキン被害者の会などの運動、民主的な弁護団、千代田地区労働者の援助、全国患者・家族集会の国会請願の採択などによって認められました。

七九年度運動の成果

この一年、全患連は加盟団体と力を合せて次のような運動をすすめて、患者と家族の要求を実現し成果を上げてきました。

最も重要な運動として、第四次大会の特別決議にもとづいて「医療保障は国民本位に」を柱にして、健康保険の改悪(薬代半額・給食代一日千円の患者負担など)に反対するため、全難連と協力し合せて、厚生省保険局の説明会を開きました。そして、公衆衛生局企画課がすすめていた各種公費医療の改悪(公費優先制度を保険優先にする、公費負担を切りつめて保険にもついでいく等を事前に把握して、いち早く反対を申し入れました。その結果、今年の春の国会に法案を提出(出舟はおくれとも港には健保と同時に)を中止させ現在に至っています。

なお、健保、公費の運動改悪に反対する運動を「全国患者・家族集会」の運動として、統一的な国会請願を行いました。健保改悪案は、六月十四日「財政調整法案」と共に航空機騒音をかきためたために国会を閉会したために廃案になりました。

に対して、厚生省、労働省に合

せて五十七項目にわたる患者と家族の要求による予算化と制度改善を申し入れました。これについては厳しい状況が生れていますが、大蔵原案編成と国会審議にかけて奮闘しなければなりません。

年金については、国会審議における追及もあって、福祉年金一万円、厚生年金、国民年金にスライド三・四割(五割以下でも実施要求)に成功しました。

七〇年代における患者運動の特徴教訓

日本の患者運動として、この十五年は組織づくりに於いても運動においても大きな発展を遂げました。

その大きな発展を特徴的にまとめ教訓として確認し深めていきたいと思えます。

1、老人医療の無料化を全国的に波及させた運動、公害反対運動などに激励されて、特に各地方に革新自治体がつきか

らつきと誕生することによって、運動の成果が上がるようになりまし。こつした運動の前進によって、今まで運動に参加できな

なお、この一年、患者白書

作成準備にも専念しました。特に全難連などの協力も得て「患者実態調査」の実施にこぎつてきました。八〇年代初頭と国際障害者年を目前にして患者白書を患者団体自身の手で発行することは極めて有意義な事業として、社会的に大きな評価をうけるでしょう。

かつた人達が多数参加するようになりまし。そして権利意識も高められました。もう一つは、この間に特に「運動の視野をひろげた」とは特徴的なことです。それぞれの疾病別組織が生じたこと共に、全患連、全難連の結成がありましたし、二十二都道府県に地域難病連がつくられたことです。

運動面においては、障害年金改正をすすめる会(五十四団体)、全国患者・家族集会―実行委員会―の創設という更に横断的な組織がつくられ

たことにより、政府が福祉切り下げに政策転換した以後も要求実現の成果、国会請願を採択させていることです。この間、政府の患者運動に対する対応の特徴ですが、患者と労働者、患者と国民、患者団体間など各分野にわたって、予算とか行政を使つての分断ときりくすが際だったのが特徴です。私たちは、この分断と切りくすしに反対し、共通する要求で運動の統一と組織の団結を拡大してきました。

国民本位の医療と福祉を

求める運動をめざして

十一月五日・六日には東京で

「第十八回全国消費者大会が開

催されました。この大会は「国

民の不安をかきたてる大型石油

ショックや狂乱物価の再来問

し」とみて、「第二の石油危機

はなげくるのか」を明らかにし

ています。一般消費税、増税、

公共料金値上げ反対、医療・年

金などの受益者負担反対の大運

動を決議しました。

十一月二十七日には「くらし

と福祉の危機を打開する予算要

求大集会」が東京で開催されま

す。

これには、低所得者・失業者

高齢者・障害者などが参加し大

運動を盛り上げること決議し

ようとしています。

再来年にむかえる国際障害者

年に対して「障害者の生活と権

利を守る全国連絡協議会」は年

金・福祉・教育・労働・生活な

どの基本要求をかけた、障害者

関係法の全面改正を要求する国

会への大運動を決議します。そ

して二万人の全国集会を開く事

を決議しようとしています。

医療と福祉の面では、医療関

係団体による「医療をよくする

「一人集会」も準備されてきて

います。

このように国民各層の運動は

危機の打開を求めて急速に盛り

上げてきています。

私たち患者・家族もこうした

国民各層の運動に励まされなが

ら、それへの参加と同時に自づ

から運動を盛り上げることが強

く求められています。

そして、八〇年代には生活と

医療・福祉の危機をのりこえて

着実に患者本位・国民本位の医

療と福祉づくりの展望をきりひ

わが国において患者運動が

飛躍を遂げた七〇年代の最終

盤において、全国患者団体連

絡協議会は、今日ここに第五

回定期大会を開催しました。

この大会は、七〇年代にお

ける患者・家族運動の土台で

ある組織づくりと数々の成果

を確認しました。そして、運

動の視野をひろげることによ

って、障害年金改正をすすめ

る会(五十四団体)、全国患

者・家族集會―実行委員会―

(五十一団体)による大統一

運動などから貴重な教訓を導

きたした「七〇年代における

患者運動の歩み」をまとめ発

表しました。

あと二十四日で一九八〇年

代を迎えます。

私たちは、全国の患者・家

族の最大の願ひである「安心

して病気の治せる・健康で平

和な生活を築く」ために、政

府・自民党の医療と福祉の後

皆さんに今以上のご支援を訴

えます。

大会宣言(案)

私たちは、八〇年代初頭に

は医療関係団体にもよびか

け、大統一運動を展開するこ

とを決議します。

右宣言します。

一九七九年二月九日

全国患者団体連絡協議会

第五回定期大会

患者運動

長宏著 勁草書房刊
定価 1,200円 千160円

世界でもめずらしい、といわれる「患者運動」が、なぜ日本だけに発生したのか。人権意識をもって立ち上った患者運動の現状と課題を明らかにしています。必読の書。

お申込み 現金(切手も可)でお申込み下さい。
全国患者団体連絡協議会 東京都清瀬市松山2-13-12

「かんじやと医療」

「購読のおねがい」

本誌は、全国患者団体 さらにお願ひします。
連絡協議会(略称・全患 申込先 千一八〇一〇四
連)の機関誌です。 東京都清瀬市松山
読者の皆さんから、患 二一三一一二本
者や家族、一般の方々 誌編集委員会まで
ぜひ購読をおすすめくだ 購読料六ヶ月六六〇円

運動目標

とすめ方

五大統一要求かかげ

地域から運動を

新年度の運動方針にあわせて長期的な目標もふくめた提案をします。

告における教訓を生かしながら、次ぎのような運動目標(運動のすめ方)を提案します。

いまの「私たちの実態(願い)をふまえて、情勢でも明確になつた「医療(福祉、生活の危機を打開する「国民本位の医療(福祉づくり)」の運動をすめましよう。

の要求も追加し、民主的な権利の拡大を要求しようではありませんか。

運動の目標

(統一要求の実現)

- (1) いのちと健康、医療と福祉の保障を要求しよう
- (2) 健康で文化的な生活の保障を要求しよう
- (3) 病気や障害を理由にした首切りをなくし、雇用の促進を要求しよう
- (4) 労働災害・職業病の総合的な補償制度の確立を要求しよう
- (5) 安心して病気の治せる民主的権利の保障と平和な社会を要求しよう

その運動の目標として、「五大統一要求」を将来的にも取り組む基本的で共通のものとして位置づけようではありませんか。

なお、この「五大統一要求」は、今後の運動のなかで補強し

- 1、患者白書を発行します。(別表)

配布して討議をお願いし、全体の意見を反映させ

創立五周年記念事業

- 2、患者の権利宣について、別紙の案を全組織に、な時期に発表します。

運動のすめ方

七九年度の運動のすめ方としては、①統一要求(従来

要もふくむ)の実現をめざすこと、②患者・家族運動と

医療関係者(団体)運動の協力関係が強く求められている

を反映させて、患者・家族

運動と医療関係者運動の全国集会を開催します。

そのためには、これらの運動の基礎となっている各加盟団体の運動のいっそうの前進が強く求められていることです。

具体的にはつぎのような内容で取り組みましょう。

- (1) 統一五大要求の実現をめざす方向で、しかも、住民本位の「地域医療と福祉づくり」の運動として具体化しながらすめましょう。

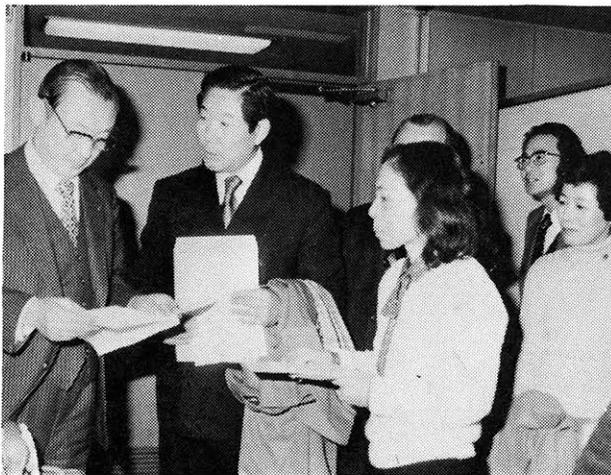
なお、昨年の大会で決議

された①救急患者の自主的登録制度新設②救急患者の受入れ体制確立③人工臓器等患者の看護制度新設の三つについては「地域医療と福祉づくり」の一つの内容

としていきましよう。

- (2) 統一五大要求をもち込んだ国民本位の「医療と福祉づくり」については、他の患者・家族団体や医療関係団体にもよびかけて、共同の事業としてすめようにしていきましよう。

(3) 二つの運動がついて発展することを望む気運の盛り上りに合わせて「患者、医療関係者全国集会(仮称)を開催できるようにしていきましよう。



厚生省、曾根田官房長に予算要求をする全患連、全難連の代表の皆さん、今年1月6日。

八〇年代の展望にふさわしい

患者や家族の多くが参加できる組織づくりを

これからはいっそう生活や医療と福祉の不安が増大するにつれて、少なからぬ患者や家族から、生活や医療相談がもち込まれると共に、廻り(近)組織が強く求められるようになってくると思われまます。

学習によって

運動の質を高める

1、幹事会の理論・活動水準を求めに応じて高めあう学習会

2、情勢変化に対応した方針づきり、見も聞く機会をつくりまます。

将来にむけての

展望委員会を設置

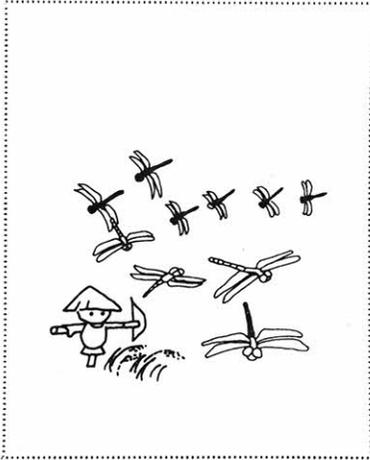
1、機関誌「かんじやと医療」を宣伝の重要な武器として位置づけ誌面改訂をします。

2、中央や地域の患者運動の全体を知る方法はないかという声にこたえるために、共同宣伝の方法を研究します。

患者の期待に応える

組織づくりをすすめる

- 1、疾病別にみてまた組織のできていないものについての自主的な組織づくりを引きつづいて援助していきます。
- 2、「全国患者・家族集会」実行委員会」の運動強化の期



運動と組織活動を

支える財政づくり

1、財政の基本を分担金と機関誌購読料におきますが、各団体の事情も考慮して、当面は患者白書発行ならびに「障害年金改正をすすめる会」の国会請願募金をつめ、来秋に予定する「患者と医療関係者による全国集会(仮称)」を成

功させるための資金あつめなどの努力によって財政を健全化の方向をめざします。

2、七八年度の赤字繰(四十七万六千七百十七円)は、七九年の各支出を削減して解消をはかりまます。

全患連定期大会案内

12月9日(日)

午前10時30分より4時30分

場所はきまりしだいご連絡いたします。